

IV 野 菜

1. たまねぎ

(1) アーク (原名 アーク) 1987年

登録番号: (北海道) たまねぎ準移交第10号

来歴 本品種はタキイ種苗株式会社とホクレン農業協同組合連合会が、耐病性に優れた長期貯蔵性品種の育成を目標として、「アーリー・イエロー・グローブ」の耐乾腐病系より育成した雄性不稔の種子親系統と「札幌黄」の北見在来から乾腐病抵抗性で選抜した花粉親系統を利用した単交配F₂品種である。1984年から各種の試験を行い、1987年に優良品種となった。

特性概要

1. 種子千粒重は約4gで「北もみじ」よりやや軽く、発芽率及び苗の生育は「フラヌイ」、「北もみじ」よりやや劣るが、移植後の旺盛な生育により回復する。
2. 草姿は「北見黄」等の在来種と同程度にやや開張し、葉折れもやや多い。葉部生育は旺盛である。葉色などその他の葉部形質については「フラヌイ」、「北もみじ」と差異はない。
3. 球肥大期、倒伏期、枯葉期のいずれについても「フラヌイ」、「北もみじ」と同程度の早晩性を示し、中生に属する。

4. 乾腐病に対しては、同病抵抗性の「フラヌイ」、「北もみじ」と同程度で「札幌黄」等の在来種より明らかに強い。その他の病害虫に対しては「フラヌイ」等と差異はない。

5. 球の肥大性は「フラヌイ」より勝り、総収量、規格内収量とも「フラヌイ」より多収を示し「北もみじ」と同程度の安定した多収性を示す。やや扁平球の傾向はあるが、規格内率は「北もみじ」と同程度に高い。

6. 球は硬く、皮むけしないので「フラヌイ」、「北もみじ」と同様「札幌黄」等の在来種より明らかに機械収穫に適する。外皮色は「フラヌイ」よりやや濃い黄銅色を示し、球の大きさや形態等の球形質の揃いは「フラヌイ」、「北もみじ」よりやや優れている。

7. 4月以降の貯蔵後期に発根が早まる傾向が認められるが、貯蔵用品種である「フラヌイ」、「北もみじ」と同程度に萌芽が遅く、「北見黄」等の在来種より明らかに高い貯蔵性を示す。

栽培適地と奨励態度

全道のたまねぎ栽培地帯に適する。栽培上の注意は、「フラヌイ」、「北もみじ」等従来の品種と同様で良い。

試験場名	品 種 名	規格内収量 (kg/a)	同左比 (%)	平均一球重 (g)	規格内率 (%)	倒伏期 (月日)	貯蔵試験 (%)		
							健全率	発根・萌芽率	腐敗率
北海道農試	アーク	506	105	171	96.4	8.16	83.7	15.2	0.3
	フラヌイ	481	100	159	95.8	8.14	81.8	18.2	0
	北もみじ	537	112	179	96.7	8.15	69.4	29.9	0.4
	せきほく	(616)	(114)	(202)	(95.7)	(8.19)	-	-	-
	ツキヒカリ	525	109	171	96.4	8.17	82.6	17.5	0
	北見黄	438	91	168	87.6	8.15	43.7	55.2	1.2
中央農試	アーク	454	108	160	89.2	8.10	-	-	-
	フラヌイ	421	100	153	86.7	8.10	-	-	-
	北もみじ	462	110	162	90.3	8.8	-	-	-
	せきほく	437	104	162	87.7	8.11	-	-	-
	ツキヒカリ	475	112	162	92.1	8.12	-	-	-
	北見黄	465	111	193	85.6	8.14	-	-	-

試験場名	品 種 名	規格内収量 (kg/a)	同左比 (%)	平均一球重 (g)	規格内率 (%)	倒伏期 (月日)	貯蔵試験 (%)		
							健全率	発根・萌芽率	腐敗率
北見農試	アーク	538	113	181	96.0	8.5	56.8	42.9	0.6
	フラヌイ	473	100	170	92.0	8.7	72.0	28.0	0
	北もみじ	509	108	180	93.6	8.7	66.2	33.7	0.2
	せきほく	584	123	204	94.6	8.10	78.1	21.2	0.6
	ツキヒカリ	493	104	193	88.7	8.10	70.9	28.5	0.3
	北見黄	454	96	193	82.9	8.7	35.7	63.7	0

注) 試験年次は1984年～1986年、()内は1985年～1986年の値である。

参照 1) 北海道農務部編, 昭和62年普及奨励ならびに指導参考事項, 45-48(1987)。

(2) 天 心 (系統名 試交21-15) 1991年

登録番号: (北海道) たまねぎ準移第11号

来歴 本品種は、日本農林社が北海道向けの乾腐病抵抗性と高貯蔵性を有した多収品種の育成を目的として、米国で育成された細胞質雄性不稔系統を種子親とし、北海道産の「そらち黄」より選抜された自殖系統を花粉親として育成した一代雑種である。

特性概要

1. 種子千粒重は4.12gで「ツキヒカリ」より軽いが、発芽率及び苗の生育は「ツキヒカリ」「北もみじ」と同程度で、移植後の生育も良好である。
2. 草姿は「そらち黄」等の在来種と同程度にやや開張し、葉鞘もやや太い。葉部の生育は「ツキヒカリ」と差異は無く、葉色等その他の葉部形質についても「ツキヒカリ」「北もみじ」と差異は無い。
3. 球の肥大開始は概ね「ツキヒカリ」と同程度でやや遅く、倒伏は「ツキヒカリ」より5日、「北もみじ」より1週間程度遅いが、収穫期は「ツキヒカリ」と同程度となり、総じて「ツキヒカリ」よりやや遅い晩生種に属する。
4. 乾腐病抵抗性は「ツキヒカリ」「北もみじ」と同程度で、「ひぐま」等の大球品種より明らかに強い。軟腐病

は「北もみじ」よりやや多い傾向があるが、特に感受性とはいえない。生育の遅れた年次には生育後期にボトリチス属菌に罹病しやすく、風乾中及び貯蔵中の腐敗が多発することがある。

5. 球の肥大性は「ツキヒカリ」より明らかに優り、一球重が重く、総収量、規格内収量とも「ツキヒカリ」「北もみじ」より多収を示し、規格内率は「ツキヒカリ」と同程度に高い。
6. 球はやや柔らかく、外皮色は「ツキヒカリ」よりやや淡い黄銅色、球形は地球型で「北もみじ」よりやや甲高で首部が太く、揃いは良好である。
7. 4月以降の貯蔵後期に発根が早まる傾向が認められるが、高貯蔵性品種の「ツキヒカリ」「北もみじ」と同程度に萌芽が遅い。

栽培適地と奨励態度

全道のたまねぎ栽培地帯における春まき露地移植栽培に適するが、網走管内では倒伏の遅れにより、外皮の着色不良や貯蔵腐敗が多発する事がある。栽培上の注意は、栽培は「ツキヒカリ」「北もみじ」等従来の品種と同様で良いが、生育の遅れた場合にボトリチス属菌による腐敗が発生しやすいので、生育後期の防除に努める。また、晩生に属するので多肥栽培を避け、根切り処理による枯葉の促進が必要である。

試験場名	品 種 名	規格内収量 (kg/a)	同左比 (%)	平均一球重 (g)	規格内率 (%)	倒伏期 (月日)	貯蔵試験 (%)		
							健全率	発根・萌芽率	腐敗率
北海道農試	天 心	571	123	183	96.6	8.15	85.2	10.9	3.9
	ツキヒカリ	465	100	151	94.9	8.10	77.0	18.2	5.0
	北もみじ	481	103	158	94.7	8.10	87.1	9.1	4.0
	ひぐま	(535)	(111)	(181)	(91.0)	(8.12)	63.4	34.7	2.0

試験場名	品 種 名	規格内収量 (kg/a)	同左比 (%)	平均一球重 (g)	規格内率 (%)	倒伏期 (月日)	貯蔵試験 (%)		
							健全率	発根・萌芽率	腐敗率
中央農試	天 心	480	124	200	82.1	8.19	35.0	55.0	10.0
	ツキヒカリ	393	100	172	78.4	8.12	53.3	36.7	10.0
	北もみじ	437	111	168	84.6	8.8	33.3	55.0	11.7
	ひぐま	426	108	206	75.5	8.4	-	-	-
北見農試	天 心	666	106	232	95.4	8.18	33.0	55.4	11.8
	ツキヒカリ	625	100	229	91.3	8.14	66.1	29.3	4.9
	北もみじ	652	104	223	95.5	8.10	65.2	32.3	2.6
	ひぐま	(709)	(110)	(267)	(89.0)	(8.8)	29.6	68.4	2.3

注 1) 北海道農試の()は1988年～1989年、北見農試の()は1988年と1990年の平均値、その他は1988年～1990年の平均値である。

2) 貯蔵試験は1988年～1989年の平均値であるが、中央農試と北見農試の「ひぐま」は1988年のみの値である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成3年普及奨励ならびに指導参考事項, 36-38(1991)。

(3) 北もみじ86 (系統名 H-86) 1991年

登録番号: (北海道)たまねぎ準移第12号

来歴 本品種は、株式会社七宝が耐病性、球品質、収量性及び貯蔵性に優れた品種の育成を目的として、「札幌黄」×「Early Yellow Globe」の後代から育成した高貯蔵性の細胞質雄性不稔系統と、「札幌黄」の自殖後代から育成した耐病性及び球肥大性に優れた花粉親系統の利用による単交配一代雑種である。

特性概要

1. 種子千粒重は「ツキヒカリ」「北もみじ」より軽いが、発芽勢及び発芽率は「ツキヒカリ」と同程度で「北もみじ」よりやや優り良好である。苗の生育量は「ツキヒカリ」「北もみじ」とほぼ同程度である。
2. 草姿はやや直立し、葉折れがやや少なく「ツキヒカリ」「北もみじ」と同程度である。葉色等その他の葉部形質及び7～8月の草丈等の葉部生育量についても両品種と差異はない。
3. 球肥大期は「ツキヒカリ」「北もみじ」と同程度であるが、倒伏期は「北もみじ」より遅く「ツキヒカリ」

とほぼ同程度でやや晩生に属する。

4. 乾腐病抵抗性は「ツキヒカリ」「北もみじ」と同程度の抵抗性を有すると認められ、その他の病害虫に対しては両品種と差異は認められない。
5. 球の肥大性が「ツキヒカリ」「北もみじ」より優り、平均一球重が大きく総収量、規格内収量とも高い。しかし、高温、干ばつの年には長球や変球形が多発することが有り、総じて規格内率は「ツキヒカリ」よりやや低く、「北もみじ」より低い。
6. 球は「ツキヒカリ」「北もみじ」と同様に硬く、皮むけが少ない。外皮色は「北もみじ」と同程度で、「北もみじ」よりやや濃い。球形質は、形状の揃いの点で「北もみじ」より劣り、「ツキヒカリ」と同程度である。
7. 収穫翌年の3～4月の発根が少なく、高貯蔵性品種である「ツキヒカリ」「北もみじ」より良好な貯蔵性を示す。

栽培適地と奨励態度

全道のたまねぎ栽培地帯の春播き露地移植栽培に適する。栽培上の注意は、やや晩生に属するので、根切り処理の適期実施による枯葉の促進が必要である。

試験場名	品 種 名	規格内収量 (kg/a)	同左比 (%)	平均一球重 (g)	規格内率 (%)	倒伏期 (月日)	貯蔵試験 (%)		
							健全率	発根・萌芽率	腐敗率
北海道農試	北もみじ86	600	129	204	91.0	8.12	92.3	4.1	3.7
	ツキヒカリ	465	100	151	95.0	8.10	77.0	18.2	5.0
	北もみじ	481	103	158	95.0	8.10	87.1	9.1	3.9

試験場名	品 種 名	規格内収量 (kg/a)	同左比 (%)	平均一球重 (g)	規格内率 (%)	倒伏期 (月日)	貯蔵試験 (%)		
							健全率	発根・萌芽率	腐敗率
北見農試	北もみじ86	585	94	221	90.3	8.14	81.3	15.2	3.8
	ツキヒカリ	625	100	229	91.3	8.14	66.1	29.3	4.9
	北もみじ	652	104	223	95.5	8.10	65.2	32.3	2.6

注) 試験年次は1988年～1990年、ただし貯蔵試験は1998年～1989年の平均値である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成3年普及奨励ならびに指導参考事項, 39-41(1991)。

(4) (系統名 北見交17号) 1994年
登録番号: (北海道) たまねぎ北海道交第5号
(種苗法) 出願中

来歴 本品種は、ホクレン農総研との共同研究により、球肥大性が良好で、軟質で辛味が少なく調理、加工適性に優れた業務用品種の育成を目標に、ホクレン農総研が導入した細胞質雄性不稔系統「AOPFA」を種子親とし、北海道立北見農業試験場育成の「KMS7320-12M」を花粉親として育成した単交配一代雑種である。1989年に「CX3」、1990年からは「北見交17号」の系統名で各種の試験を行い、1994年に優良品種となった。

特性概要

1. 種子千粒重は「ツキヒカリ」よりやや重く、発芽勢はやや低いが、発芽率に差は認められない。苗の生育はやや旺盛である。
2. 活着後生育初期における草姿はやや開張し、葉身のねじれもやや多いが、7月中旬～下旬の葉部生育最盛期の草姿は、やや直立型で葉折れも少なく「ツキヒカリ」とほぼ同様である。草勢は「ツキヒカリ」よりやや強く、葉色もやや濃い。
3. 肥大期は「ツキヒカリ」と同程度かやや早く、倒伏期は中生種の「北もみじ」より遅く、やや晩生種の「ツキヒカリ」「北もみじ86」よりやや早い。
4. 平均一球重は「ツキヒカリ」より大きく、球肥大性の良好な「北もみじ86」とほぼ同程度である。規格内

率は球形の揃いの良好な「北もみじ」と同程度で「ツキヒカリ」より高い。規格内収量は「ツキヒカリ」「北もみじ」より高く、「北もみじ86」よりやや高い。

5. 皮むけの難易及び皮色の濃さは「ツキヒカリ」とほぼ同程度で「北もみじ」よりやや優る。形状の揃いは「北もみじ」と同程度で、「ツキヒカリ」「北もみじ86」より優る。肉質は「北もみじ」より柔らかく「月輪」より硬い。固形分含量と全糖含量は「北もみじ」と同程度で「月輪」より高い。辛味成分の指標であるピルビン酸含量は「北もみじ」よりやや低く、「月輪」より高い。食味評価は生のサラダ(スライス)では、ほぼ「北もみじ」並で「月輪」よりやや劣る。加熱調理後は甘味の発現が良好で苦味が少なく、肉質も柔らかく、ソテーなどの食味は「北もみじ」「月輪」より優れる。
6. 貯蔵後の健全率は「ツキヒカリ」とほぼ同程度で、良好な貯蔵性を示すが、貯蔵条件により萌芽がやや早まる傾向がある。
7. 乾腐病抵抗性は、抵抗性強の「ツキヒカリ」より弱く、抵抗性中の「レオ」「ひぐま」とほぼ同程度で、抵抗性弱の「月輪」よりは強い。耐抽苔性は「ツキヒカリ」とほぼ同水準である。

栽培適地と奨励態度

全道のたまねぎ栽培地帯に適し、用途は業務用及び青果用である。栽培上の注意は、乾腐病の多発圃場における栽培は避ける。軟腐病やボトリチス等による腐敗球の発生に対する適切な防除の実施に留意する。

比較対象	品 種 名	倒伏期 (月日)	乾腐病率 (%)	平均一球重 (g)	規格内率 (%)	規格内収量 (kg/a)	同左比 (%)	貯蔵後健全率 (%)
ツキヒカリ	北見交17号	8.14	2.4	237	90	605	116	67
	ツキヒカリ	8.15	1.3	213	85	521	100	69
	(n)	(31)	(31)	(31)	(31)	(31)		(20)
北もみじ	北見交17号	8.14	2.4	237	90	605	113	67
	北もみじ	8.10	0.8	201	90	534	100	58
	(n)	(31)	(31)	(31)	(31)	(31)		(20)

比較対象	品 種 名	倒伏期 (月日)	乾腐病率 (%)	平均一球重 (g)	規格内率 (%)	規格内収量 (kg/a)	同左比 (%)	貯蔵後健全率 (%)
北もみじ86	北見交17号	8.14	2.6	238	90	607	108	68
	北もみじ86	8.17	1.1	239	80	561	100	77
	(n)	(29)	(29)	(29)	(29)	(29)		(11)
レ オ	北見交17号	8.17	2.5	229	90	576	105	56
	レ オ	8.14	1.9	213	88	549	100	29
	(n)	(18)	(18)	(18)	(18)	(18)		(18)
ひぐま	北見交17号	8.17	2.4	229	90	574	103	49
	ひぐま	8.13	2.2	224	84	559	100	9
	(n)	(16)	(16)	(16)	(16)	(16)		(10)
月 輪	北見交17号	8.16	2.5	222	89	549	109	47
	月 輪	8.15	4.7	253	79	505	100	9
	(n)	(14)	(14)	(14)	(14)	(14)		(7)

注 1) 試験年次：1989年～1993年、試験成績は北見農試、ホクレン農総研、中央農試、北見市、留辺蘂町、富良野市、岩見沢市、札幌市における対応する総平均値での比較。
2) (n) は実施試験数を示す。

参照 1) 北海道農政部編、平成6年普及奨励ならびに指導参考事項、31-33(1994)。

(5) ツキサップ (系統名 月交16号) 1994年

登録番号：(北海道) たまねぎ北海道交第6号
(農水省) たまねぎ農林交5号

来歴 本品種は、農林水産省北海道農業試験場が育成したもので、1984年に米国U.S.D.Aより導入した細胞質雄性不稔系統「2935A」を種子親とし、「札幌黄」の富良野市在来系統「久保系」より選抜育成した「K83211」を花粉親とした交配組合わせで優良性が認められたため、1990年から「月交16号」の系統名で各種の試験を行い、1994年に優良品種となった。

特性概要

1. 苗床及び定植後の生育は旺盛で、標準品種「ツキヒカリ」及び対象品種「北もみじ」より勝り参考品種「北もみじ86」と同等の草勢を示す。
2. 肥大開始期は「ツキヒカリ」より1～2日早く、「北もみじ」とほぼ同時期である。倒伏期は「ツキヒカリ」より4～5日遅く、「北もみじ86」とほぼ同時期か僅かに遅い。枯葉期は「ツキヒカリ」より僅かに遅い程度であり、「北もみじ86」と同時期である。
3. 耐抽苔性は、比較3品種と同等と認められ、通常の栽培では多発した事例はない。
4. 乾腐病抵抗性は「ツキヒカリ」と同等と推察され、その他の病害についても発生は少なく、比較3品種と

同等である。

5. 球肥大が良好で大球となり、規格内収量は「ツキヒカリ」を10～30%程度、「北もみじ」を約10%上回り、「北もみじ86」とほぼ同等である。規格内率は「ツキヒカリ」及び「北もみじ」よりやや低いが、「北もみじ86」よりもやや高い。
 6. 球の硬さは「ツキヒカリ」及び「北もみじ86」と同程度で「北もみじ」よりもやや硬い。皮張り性は「ツキヒカリ」と同等で「北もみじ」及び「北もみじ86」よりも優る。球形は比較3品種よりもやや扁平であり、揃いは「ツキヒカリ」及び「北もみじ」よりやや劣るが、「北もみじ86」よりは安定している。皮色は「ツキヒカリ」及び「北もみじ86」よりもやや薄く、「北もみじ」と同等である。
 7. 貯蔵中の腐敗によるロスは、比較3品種と同等に少ない。また発根及び莖盤突出が「ツキヒカリ」及び「北もみじ」よりもかなり遅いため、貯蔵末期の健全率は両品種を大きく上回る。莖盤突出が少ないため、貯蔵末期における球の変形及び変形に伴う皮むけは比較3品種より少ない。
 8. 本品種は花粉親の開花がやや早いため、採種性は「ツキヒカリ」よりもやや劣るが、実用上問題はない。
- 栽培適地と奨励態度
全道のたまねぎ栽培適地に適し、貯蔵性が高いことか

ら秋期から春期にわたる長期出荷の青果用に適する。栽培上の注意は、倒伏が遅く、肥大期以降の直立期間が長いので、生育後期の病害防除に注意する。また、初期生

育の遅れる場合には、大きく減収することがあるので、適正な苗質確保と定植条件の整備に努める。

試験場名	品 種 名	規格内収量 (kg/a)	同左比 (%)	平均一球重 (g)	規格内率 (%)	貯蔵前腐敗率 (%)	貯蔵後発根率 (%)	貯蔵後健全率 (%)
北海道農試	月交16号	575	137	198	90.2	1.8	3.0	92.9
	ツキヒカリ	435	100	158	85.6	2.1	7.8	61.4
	北もみじ	521	125	174	93.6	1.9	8.4	69.2
	北もみじ86	583	145	212	87.0	2.1	2.9	85.8
北見農試	月交16号	636	121	259	86.5	8.5	36.9	26.7
	ツキヒカリ	528	100	212	85.4	5.1	46.3	1.6
	北もみじ	590	113	219	91.9	5.7	68.6	0.2
	北もみじ86	609	117	252	85.7	8.1	43.5	12.9
中央農試	月交16号	312	93	177	70.9	20.2	18.3	40.0
	ツキヒカリ	337	100	169	75.9	12.7	20.9	9.0
	北もみじ	417	124	172	86.3	9.5	42.5	11.1
	北もみじ86	377	112	202	76.9	17.3	39.5	9.9

注 1) 試験年次：北海道農試は1990年～1993年、北見農試・中央農試は1990年、1992年～1995年である。
2) 中央農試の腐敗率、発根率、健全率は1993年の値である。

参照 1) 北海道農政部編、平成6年普及奨励ならびに指導参考事項、33-36(1994)。

(6) 改良オホーツク1号 (系統名 H-146) 1994年
登録番号：(北海道)たまねぎ準移交第13号

来歴 本品種は、株式会社七宝が早生で耐抽苔性を有する「オホーツク1号」の耐病性、球肥大性の改良を目標とし、府県の秋播き用品種である「泉州黄」から育成した細胞質雄性不稔系統と「札幌黄」から選抜、育成した花粉親系統との一代雑種である。1991年から各種の試験を行い、1994年に優良品種となった。

特性概要

1. 種子の千粒重は「ツキヒカリ」及び「北もみじ」より軽く、「北もみじ86」と同程度である。発芽勢及び発芽率は「ツキヒカリ」よりやや劣るものの、「北もみじ」及び「北もみじ86」と同程度である。
2. 草姿はやや直立し、葉折れも少なく「ツキヒカリ」、「北もみじ」及び「北もみじ86」と同様である。草勢や葉色もこれら3品種と同様である。
3. 球肥大期は「ツキヒカリ」、「北もみじ」及び「北もみじ86」より5日程度早い。倒伏期は「ツキヒカリ」、「北もみじ86」より6日、「北もみじ」より2日早い早生種である。
4. 乾腐病に対しては「ツキヒカリ」、「北もみじ」及び

「北もみじ86」と同程度の抵抗性を有すると認められ、その他の病害虫の発生は「ツキヒカリ」及び「北もみじ」と同程度である。

5. 「ツキヒカリ」、「北もみじ」及び「北もみじ86」に比較して抽苔の発生が少なく、耐抽苔性が高い。
6. 平均一球重は「北もみじ86」より劣るが、総じて「ツキヒカリ」及び「北もみじ」と同程度かやや優る。規格内率は「北もみじ」より劣り、総じて「ツキヒカリ」及び「北もみじ86」と同程度で、規格内収量は「北もみじ86」より劣り、「ツキヒカリ」及び「北もみじ」とほぼ同程度である。
7. 球の硬さは「ツキヒカリ」及び「北もみじ86」より柔らかく、「北もみじ」とほぼ同程度で、皮むけ程度及び外皮色は、「ツキヒカリ」及び「北もみじ86」より劣り、「北もみじ」ほぼ同程度である。心ずれ球が発生しやすく、球形及びその揃いは「北もみじ」に比較して不良で、裂皮球や長球の発生もやや多い。
8. 萌芽は「ツキヒカリ」、「北もみじ」及び「北もみじ86」程度に遅いが、発根が早く貯蔵性は劣る。

栽培適地と奨励態度

全道のたまねぎ栽培地帯における春播き露地移植栽培に適するが、早生で球肥大性が良好であり、耐抽苔性を

有することから、早期播種による早期出荷に適する。栽培上の注意は、球肥大が旺盛な条件では、根切り処理が

遅れると変形球、裂皮球が多発することがあるので、通常より早い根切り処理が必要である。

試験場名	品 種 名	規格内収量 (kg/a)	同左比 (%)	平均一球重 (g)	規格内率 (%)	肥大期 (月日)	倒伏期 (月日)	貯蔵後健全率 (%)	試験年次
北海道農試	改良オホーツク1号	459	106	192	78	7.19	8.3	93.6	1991~1993
	ツキヒカリ	434	100	165	82	7.25	8.6	65.2	
	北もみじ	538	124	183	92	7.25	8.4	80.8	
	北もみじ86	600	138	223	86	7.24	8.11	83.6	
中央農試	改良オホーツク1号	365	99	180	79	7.26	8.16	2.1	1991~1993
	ツキヒカリ	368	100	178	79	8.3	8.26	15.5	
	北もみじ	413	112	166	86	8.2	8.20	13.0	
	北もみじ86	412	112	202	74	8.1	8.23	19.0	
北見農試	改良オホーツク1号	597	116	233	86	7.17	8.9	0.4	1991~1993
	ツキヒカリ	513	100	210	83	7.26	8.16	1.8	
	北もみじ	550	107	205	91	7.24	8.10	0.2	
	北もみじ86	652	127	262	84	7.28	8.16	13.3	

注) 貯蔵後健全率は1991年~1992年の値である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成6年普及奨励ならびに指導参考事項, 36-39(1994)。

(7) スーパー北もみじ (系統名 H-136A) 1995年
登録番号: (北海道) たまねぎ準移交第14号

来歴 本品種は、株式会社七宝が高い貯蔵性と多収性を備え、更に耐病性、耐抽苔性及び球品質が良好な品種の育成を目標に、米国で育成された乾腐病抵抗性品種と「そらち黄」より選抜された自殖系統との交雑後代から育成された細胞質雄性不稔系統を種子親とし、「北見黄」の自殖後代から育成された系統を花粉親として育成した単交配一代雑種である。1992年から各種の試験を行い、1995年に優良品種となった。

特性概要

1. 種子の千粒重は「北もみじ86」と同様に、「ツキヒカリ」や「北もみじ」よりやや軽い傾向にあるが、発芽勢・発芽率や苗生産量はこれら3品種とほぼ同程度である。
2. 7月の葉部生育最盛期における生育量は「ツキヒカリ」、「北もみじ」及び「北もみじ86」とほぼ同程度かやや優る。草姿はやや直立し、葉折れも少なく、これら3品種とほぼ同様であり、葉色は同程度からやや濃い。
3. 肥大期は「ツキヒカリ」、「北もみじ」及び「北もみじ86」とほぼ同時期であり、倒伏期は中生の「北もみじ」より遅く、やや晩生の「ツキヒカリ」、「北もみじ

86」とほぼ同時期である。

4. 乾腐病に対しては抵抗性品種である「ツキヒカリ」、「北もみじ」及び「北もみじ86」と同程度の抵抗性を有する。
5. 抽苔率は「ツキヒカリ」や「北もみじ」及び「北もみじ86」に比較して概ね低いが、「改良オホーツク1号」とは異なり不時抽苔の発生は皆無ではなかった。
6. 平均一球重は「ツキヒカリ」、「北もみじ」より大きく、総じて「北もみじ86」とほぼ同程度である。規格内率は総じて「北もみじ」とほぼ同程度で、「ツキヒカリ」や「北もみじ86」より高い。規格内収量は「ツキヒカリ」や「北もみじ」より高く、総じて「北もみじ86」と同程度かやや高い。
7. 球の締まり、外皮色の濃さ及び皮張りの程度は「北もみじ」より優り、「ツキヒカリ」や「北もみじ86」と同程度である。球形の揃いは「ツキヒカリ」や「北もみじ86」より優り、「北もみじ」と同程度である。
8. 萌芽、発根及び茎盤の突出が遅いため、貯蔵後健全率は「ツキヒカリ」や「北もみじ」より高く、「北もみじ86」に比較してもやや高い。

栽培適地と奨励態度

多収性、高貯蔵性及び乾腐病抵抗性を備えており球の外観品質にも優れることから、本道のタマネギ生産における基幹品種として、全道のタマネギ栽培地帯への導入

が可能である。栽培上の注意は、やや晩生であり、生育の遅れがちな北見地方への導入にあたっては、圃場の選定及び適切な肥培管理や根切り処理の実施などに特に留

意する。白斑葉枯病等枯れ性の病害や倒伏の遅延により灰色腐敗病などによる腐敗球が多発することがあるので、これらに対する適切な防除の実施に努める。

試験場名	品 種 名	規格内収量 (kg/a)	同左比 (%)	平均一球重 (g)	規格内率 (%)	倒伏期 (月日)	貯蔵後健全率 (%)	試験年次
北海道農試	H-136A	656	133	231	92	8.9	74	1992~1994
	ツキヒカリ	494	100	184	84	8.6	54	
	北もみじ	575	116	197	92	8.3	59	
	北もみじ86	638	129	232	87	8.9	68	
中央農試	H-136A	368	115	180	78	8.20	58	1992~1994
	ツキヒカリ	321	100	155	76	8.21	35	
	北もみじ	377	117	152	84	8.17	38	
	北もみじ86	397	124	182	77	8.19	44	
北見農試	H-136A	622	133	236	91	8.21	18	1992~1994
	ツキヒカリ	467	100	195	85	8.17	2	
	北もみじ	525	112	198	90	8.13	0	
	北もみじ86	608	130	245	86	8.17	10	

注) 貯蔵後健全率は1992年~1993年の成績である。

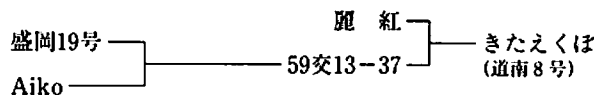
参照 1) 北海道農政部編, 平成7年普及奨励ならびに指導参考事項, 25-27(1995)。

2. いちご

(1) きたえくぼ (系統名 道南8号) 1993年
登録番号: (北海道) いちご北海道第2号
(種苗法) 第4535号

来歴 本品種は、1987年に北海道立道南農業試験場において光沢良好で果実が硬い道南農試系統「59交13-37」

を種子親に、果皮色が濃く果形の良い「麗紅」を花粉親として交配し、1989年にハウス半促成作型で、果実品質及び生育特性などにより系統選抜を行い、特性の優れた「62交102-7」に「道南8号」の新系統名を付し、1990年から各種の試験を行い、1993年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 草姿はやや立性、草勢は強、草丈は高く「宝交早生」に比べ旺盛な生育を示し、分けつは「宝交早生」より少ない。葉色は濃く、葉は「宝交早生」に比べ厚く、小葉は大きく、葉の欠刻は鈍鋸歯状で、葉数は少ない。葉柄長は「宝交早生」とほぼ同じか、やや短い。ランナーは「宝交早生」に比べ太く、発生は7~10日遅いが発生数は多い。
2. 花柄の長さは「宝交早生」並であるが、太さは太く、花及び花弁の大きさは「宝交早生」より大きく、花房当たりの花数は「宝交早生」より多い。

3. 上物収量は「宝交早生」並であるが、定植の遅れや小苗定植により「宝交早生」に比べ減収する場合がある。平均1果重は「宝交早生」より2~3g重く大果である。肩果の発生が少ないため、上物率は「宝交早生」に比べ10%程度高い。
4. 果皮は鮮紅色で果肉は淡橙色で「宝交早生」に比べると果皮果肉とも淡い。果形は円錐形で光沢があり、外観は「宝交早生」に比べて良好である。中心空洞は「宝交早生」より大で比較的小さい果実にも入る。香りは「宝交早生」並でBrixと酸度は「宝交早生」より高く、食味はほぼ「宝交早生」並である。果皮は「宝

交早生」より強く、「盛岡16号」に比べやや弱く、「ベルルージュ」に比べると弱い。果肉は「宝交早生」よりやや硬く、「盛岡16号」に比べ柔らかく、「ベルルージュ」に比べ同じか、やや柔らかい。

5. 日持ち性は「宝交早生」より優れ、「盛岡16号」並で「ベルルージュ」より劣る。
6. 露地状態での花芽分化期は、大野町では9月下旬で「宝交早生」より10日程度遅く、開花始期は「宝交早生」に比べ10～14日程度遅い。成熟日数は「宝交早生」に比べ5日前後早く、収穫期は「宝交早生」に比べ7～10日遅い中生であり、「盛岡16号」に比べて遅く、「べ

ルルージュ」並かやや遅い。休眠性は「宝交早生」より深い。

栽培適地と奨励態度

全道一円に適し、中生のため「宝交早生」と組み合わせ、収穫出荷の分散平準化を図ることができる。栽培上の注意は、「宝交早生」の栽培に準ずるが、草勢が強いため過繁茂になりやすく、灰色かび病による病果が多発する危険があるので、密植は避ける。定植の遅れや小苗定植による減収が「宝交早生」より大きいので、早期、大苗定植に努める。

試験場名	品 種 名	定植期 (月日)	収穫始 (月日)	上物収量 (kg/10a)	同左比 (%)	上物重量 (g/株)	平均 1果重 (g)	外観品質	食 味	空 洞	日持ち性
道南農試	きたえくぼ	9.7	5.11	350	139	652	13.9	4	2.8	2.3	4
	宝交早生	9.7	5.1	252	100	468	11.0	3	3	3	3
中央農試	きたえくぼ	9.19	6.2	221	89	422	12.4	4	2.3	1.1	4
	宝交早生	9.19	5.27	257	100	484	10.5	3	3	3	3

- 注 1) 試験年次：1990年～1992年
 2) 外観品質，食味，日持ち性は標準品種「宝交早生」を3として5：良～1：不良である。
 3) 空洞の基準は5：小～1：大である。

参照 1) 北海道農政部編，平成5年普及奨励ならびに指導参考事項，30-32(1993)。

3. トマト

- (1) KRN-2011 (系統名 KRN-2011) 1990年
 登録番号：(北海道) トマト北海道交第3号
 (種苗法) 第2583号

来歴 本品種は麒麟麦酒株式会社と北海製缶株式会社が、多収性で裂果、腐敗果等の障害果の発生が少なく、果汁色が良く、心止まり型の加工用トマトを目標に、1984年に「DP-7805」に「FU-8101」を交配した単交配一代雑種の品種で、1987年から各種の試験を行い、1990年に優良品種となった。

特性概要

1. 心止まり型で、生育盛期の茎葉の生育量は、無支柱放任栽培の状態、草高50～60cm、拡がり110～125cmの中～やや大型である。
2. 開花数は多くないが、着果性は良い方であり、開花は「しゅほう」より1～2日程度早い、収穫開始時期は大差ない。
3. 前期(8月末まで)の収量は「しゅほう」と同等～多収、「早生だるま」より極多収である。合計収量は「しゅ

ほう」より多収で、「早生だるま」と概ね同等である。

4. 1果平均重は「しゅほう」の103～153%、「早生だるま」より209～236%と重く、89～145gの大果である。果形は豊円～やや扁円球で、果肩部の緑色は無く、完熟すると果肉部まで濃赤色となる。果の揃いは良く、色調や色まわり、堅さは「しゅほう」と同等かやや劣り、5～6の子室を有する。乱形果の発生がやや多いが、裂果その他の障害果および腐敗果の発生は少ない。
5. 加工ジュースの色調、可溶性固形物含量および酸は「しゅほう」とほぼ同等で、加工適性は良好である。
6. 疫病や灰色かび病の発生は比較品種と同等で、特に耐病性をもたない。

栽培適地と奨励態度

加工用トマト栽培地帯に適する。栽培上の注意は、露地早熟(マルチ栽培)作型における、無支柱放任栽培とし、疫病や灰色かび病等には特に耐病性を持たないので、適期防除に努める。

試験場名	品 種 名	前期収量 (kg/10a)	同左比 (%)	合計収量 (kg/10a)	同左比 (%)	良果率 (%)	平均1果重(g)		果 実			試験年次
							前期	全 期	揃 い	色 調	堅 さ	
中央農試	KRN-2011	1,888	120	9,012	119	52.7	105.2	111.5	1.8	2	2.5	1987~1989
	しゅほう	1,579	100	7,544	100	52.6	69.3	79.9	2	2	2	
	カゴメ77	1,996	126	8,061	107	51.6	69.7	73.6	1.7	2.2	2	
	KRN-2011	1,473	213	9,456	111	50.9	113.2	125.7	1	1.5	2.5	1989
	早生だるま	700	100	8,542	100	67.8	43.7	55.2	1.5	1.5	2.5	

注) 果実の揃い、色調、堅さの指数は「しゅほう」を2とし、1:優る~3:劣るで示す。

参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 38-41(1990)。

(2) NDM051 (原名 NDM051) 1995年

登録番号: (北海道) トマト準移交第17号

来歴 本品種は、多収でジョイントレス果柄を有し、一斉・機械収穫に適し、加工用として果実品質が優れ、かつ萎ちょう病及び半身萎ちょう病に抵抗性を有することを目標に、1985年より日本デルモンテ株式会社が育成を開始し、1990年に育成を完了した単交配一代雑種で、北海製缶株式会社により本道に導入され、1992年から各種の試験を行い、1995年に優良品種となった。なお、本品種の種子親は「7889」と「3279」のF₂後代固定系統の「8358」で、花粉親は「7314」と「2432」の後代固定系統の「8778」である。

特性概要

1. 定植時の苗の生育は、「ふりこま」に比べ葉数は同じであるが草丈はやや大きく、茎がやや細い。第1花房着生節位は「ふりこま」より低い。
2. 草勢は、心止まり型で、収穫時の株の拡がりは130~140cmと「ふりこま」よりやや大型であるが、「KRN2011」よりは小型である。
3. 着果性は「ふりこま」より良好で、熟期は「ふりこま」よりやや早く、「KRN2011」とほぼ同じである。
4. 「ふりこま」に比べ未熟果率が低いため、規格内果率

- が高く、規格内収量は「ふりこま」に比べ極めて多収で、多収品種である「KRN2011」とほぼ同程度である。
5. 1果重は「ふりこま」より大きく「KRN2011」より小さい50~80gで、球形はやや縦長の球形である。ジョイントレス果柄を有しているため、へた着き果率が低く、裂果の発生は「ふりこま」と同程度に低く、果実品質は「ふりこま」に比べ外観がやや良好で、糖度も高く優れている。果肉色調は「ふりこま」よりやや劣り、日持ち性は「ふりこま」と同程度に良い。
 6. 一斉収穫に対する適性は「ふりこま」より高く、機械収穫に対する適性も高い。収穫物の輸送による損傷は「KRN2011」より明らかに少なく、輸送適性は「ふりこま」と同程度に高い。
 7. ジュース特性は「ふりこま」と同程度の高品質で、「KRN2011」より優れる。

栽培適地と奨励態度

加工トマトの無支柱栽培が行われている地域に加えて、新たな栽培の拡大が見込まれる地域に適應する。栽培上の注意は、一般の無支柱栽培における加工用トマト栽培に準ずる。収穫は、一斉・機械収穫が可能である。一斉収穫は、降雨で遅れると、過熟による腐敗果の発生が懸念されるので、収穫は主枝第一花房の果実に腐敗が見えはじめたら行う。

試験場名	品 種 名	規格内 収 量 (kg/10a)	同左比 (%)	規格別果数率 (%)			平均 一果重 (g)	糖 度 (Brix)	酸 度 (%)	pH	色 調 (Lb/a)
				規格内果	未熟果	腐敗果					
中央農試	NDM 051	4,104	204	55	23	22	57	6.4	0.41	4.36	13.0
	ふりこま	2,015	100	43	30	27	34	6.1	0.38	4.37	12.6
	KRN 2011	3,875	192	40	27	33	115	6.0	0.41	4.30	14.5

注 1) 試験年次: 1990年~1992年である。

2) 糖度、酸度、pH、色調は1994年の美瑛を除く1990年~1992年の現地試験、北海製缶及び1992年の中央農試の平均値である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成7年普及奨励ならびに指導参考事項, 27-29(1995)。